

## 文化情報学研究科教員紹介

# ”文理融合”ならではの 多分野にわたる教員陣



## 「学部・奨励学生」募集要項(概要)

※詳細は、年度毎に公表される『募集要項』で確認してください。  
申請時期は、3年次・秋学期(9月頃)です。

### 1. 募集人数 20名程度

### 2. 申請資格 申請時において以下の資格をすべて満たすこと。

- (1) 本学文化情報学部に2014年4月以降に入学し、申請時において、5セメスター以上の期間在学している者。(※当制度は、2013年度以前生には適用されません。)
  - (2) 本研究科への進学を希望し、本学大学院文化情報学研究科教員からの推薦を受けた者。
  - (3) 3年次春学期までに修得した科目のGPA<sup>(※)</sup>  
(※) GPAが、年度毎に『募集要項』で公表される評点以上の人。
  - (4) 3年次秋学期終了時点で「卒業研究」「卒業研究II」以外の卒業必要単位数である116単位以上を修得する見込みの人。  
(※各科目群に定められた卒業要件の単位修得の状況は問わない。)  
ただし第3次選入生などに転入生の単位取得要件は、次のとおり。  
3年次秋学期終了時点で「卒業研究」「卒業研究II」以外の全ての必修科目の単位を含め、卒業要件に算入される単位数100単位以上を修得する見込みの人。
- 注)「学部・奨励学生」に決定後、申請年度の3月末において上記(1)～(4)に定めた条件を満たすことができなかった場合、その決定は取り消されます。

### 3. 申請書類

- 「学部・奨励学生／申請書」  
「学部・奨励学生／研究計画書」

申請書類は文化情報学部HPよりダウンロードできます。

## ■イラスト解説 (※本誌イラストを解説します。)

「学部・奨励学生」の認定を受けた学生も、学部4年次では、「卒業研究」をはじめ、学部を卒業するためには必要な単位の取得が必要であることに変わりはありません。その上で、大学院に設置された科目を並行して履修します。本誌イラストでは、「学部・奨励学生」の認定を受けた後、大学院を修了するまでに、幾つかの進路選択が可能であることを紹介しています。履修する大学院科目や単位の取得状況などによって、次のような進路に分かれます。イラストと合わせて参照してください。

■「学部・奨励学生」が、学部4年次に、『定められた大学院科目(「シンポジウム1・2」「文化情報学研究実験Ⅰ・Ⅱ」)』を履修し、かつ審査を経て合格となった場合、大学院進学後は、「大学院・奨励学生」として科目履修や研究を行うことが認められます。「大学院・奨励学生」は、「入学前単位認定」が受けられるほか、大学院1年次で修了に必要な要件を満たし、かつ審査に合格すれば、「早期修了」が可能です。

■「学部・奨励学生」が、学部4年次に、『定められた大学院科目(「シンポジウム1・2」「文化情報学研究実験Ⅰ・Ⅱ」)』を履修した場合でも、審査の結果合格とならない場合は、「大学院・奨励学生」の認定を受けることはできません。それでも、大学院入試では「特別推薦制度」を利用することが可能です。また、「入学前単位認定」を受けることも可能なため、大学院(博士課程前期課程)ではより研究に集中することが可能です。

上記で説明された「シンポジウム1・2」「文化情報学研究実験Ⅰ・Ⅱ」を学部4年次に履修することは必須ではありません。学部4年次にこれらの科目を履修しない場合、大学院進学後、「大学院・奨励学生」となることはできませんが、上記の場合と同様、「特別推薦制度」を利用して大学院を受験することや「入学前単位認定」を受けることが可能です。

## ■用語解説 (※本誌で使用している用語を解説します。)

### 学部・奨励学生

文化情報学部4年次に在籍しながら、大学院文化情報学研究科に開講される科目を履修することが認められる学生のことです。「学部・奨励学生」として認定されるためには、募集要項にもとづいて申請し、審査に合格することが必要です。「学部・奨励学生」は、「卒業研究」をはじめ、通常の4年次生と同じように学部での履修を行なうとともに並行して大学院の授業を履修します。

### 文化情報学研究科で開講される科目(「大学院科目」)を履修する際の履修条件等

- ① 文化情報学研究科が第1・2セメスターに開講する授業科目の中から、10単位以上を履修しなければならない。
- ② ①による履修は、「学部における「自由科目(\*)」として登録履修する。  
(\*) 学部における当該年度の最高登録単位数に含まれるが、学部の卒業要件単位数には算入されない。

### 大学院・奨励学生

「学部・奨励学生」の認定を受けた学生が、学部4年次で所定の大学院科目の履修を行い、審査に合格すると、大学院文化情報学研究科へ進学後は、「大学院・奨励学生」として認められます。「大学院・奨励学生」には、大学院進学後、1年間で修士論文を提出することが認められます。

### 「大学院・奨励学生」として大学院へ進学する場合の条件

- ① 学部4年次生の期間に「学部・奨励学生」として大学院科目を10単位以上修得すること。
- ② 学部4年次生の期間に「シンポジウム1・2」「文化情報学研究実験Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得し、かつ所定の審査に合格すること。
- ③ 学部4年次生の年度末に学部卒業の要件を満たすこと。
- ④ 所定の入学試験に合格すること。

### 入学前単位認定

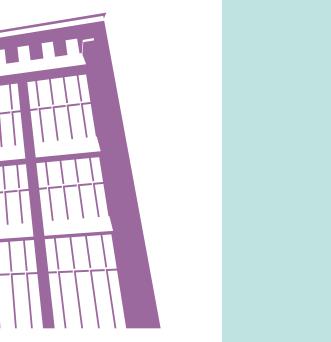
「学部・奨励学生」は学部在籍中に大学院科目を先行して履修しますが、取得した大学院科目の単位は、大学院進学後、10単位を上限に単位認定を受け、大学院での取得単位に算入することができます。これを「入学前単位認定」と言います。

# 「大学院・奨励学生」制度と 「学部・奨励学生」制度のご案内



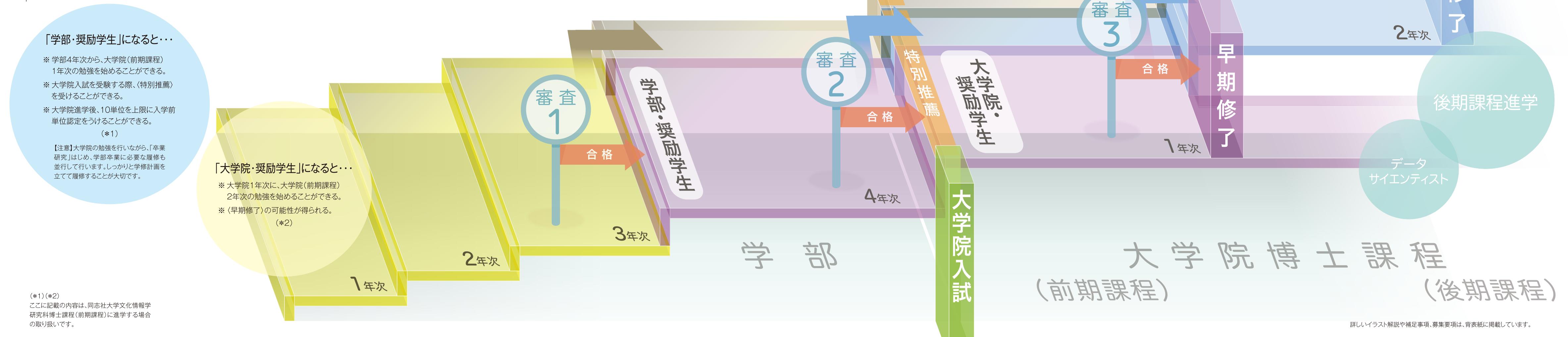
学部入学から最短5年で、  
大学院(博士課程前期課程)を修了できる  
キャリアプランにチャレンジを!

「学部・奨励学生」制度と「大学院・奨励学生」制度は、文化情報学部在学中から大学院を目指す学生に対して、文化情報学研究科へのスムーズな進学を支援し、早期修了(最短5年)をかなえる制度です。早い段階から計画的に目標を定めることで、より深い学問への探求が可能となります。



**同志社大学 文化情報学部・文化情報学研究科**  
Faculty of Culture and Information Science  
Graduate School of Culture and Information Science

3段階の審査を経て、  
早期修了の道も。



## 学部・奨励学生 【申請～資格審査】

## 【申請～資格審査】「学部・奨励学生」認定可否の判定審査

- ## 審査項目

**特記事項** 申請資格を満たしていても  
審査の認定不可(不合格)となる場合がある

審查

## 大学院・奨励学生 【申請～資格審査】「大学院・奨励学生」認定可否の判定審査

- 
  - 研究課題を研究する意義の明確さ
  - 研究課題の新規性
  - 方法論の適切性
  - 予測される結論 ● 総合評価

**特記事項** 大学院前期課程早期修了の可能性  
までを見越して審査が行なわれるため、入試判定によって大学院進学が認められる(合格)場合でも、「大学院・奨励学生」の資格は認められない(認定不可)場合がある。

審査  
3

# 審査 大学院・奨励学生 【早期修了判定】大学院前期課程の早期修了判定

- 3 審査項目

  - 研究課題の新規性・独創性
  - 方法論の有用性
  - 結論の正確さ
  - 論文の構成と読みやすさ ● 総合評価

**特記事項** 大学院前期課程早期修了の観点から、不合格判定となる場合もある。一方、早期修了判定が合格でも、修了後のキャリア・パスが決まっていない場合、不都合が生じることがある。希望する場合は、指導教員とも綿密に話し合った上で慎重な判断が必要。